

(別紙2) 審査の結果の要旨

論文題目 『近世幕領の行政と組合村』

氏名 久留島 浩

本論文は、近世後期から幕末・維新时期における江戸幕府直轄地（幕領）の在地社会と支配構造を包括的に検討し、近代以降の地域支配の歴史的な前提を解明しようとするものである。具体的な課題としては、①18世紀以降の幕領代官支配の性格を組合村や惣代庄屋の視点から解明すること、②長州戦争期における幕領の状況を検討すること、③明治初期の直轄県の歴史的な性格を明らかにすること、の3点が設定される。

I編では甲州と備中という対蹠的な性格をもつ幕領の中間支配機構が検討される。1章では、甲州の市川代官所管下（郡中）幕領における郡中惣代の機能が解明され、郡中寄合、郡中入用などの検討を介して、組合村々を選出母体とする郡中惣代という存在を発見し、これが中間支配機構としての性格を有し、自主的な行政機構と代官所行政の関係を媒介する位置にあることを明らかにする。2章では、こうして発見した郡中惣代が、他の幕領でも存在することを備中を事例に詳細に解明する。

II編は、組合村一惣代庄屋制の性格を検討する。3章では、惣代庄屋による「郡中」・組合村運営の特質が、備中を例に分析される。ここでは郡中一郡一組合村という入用の重層構造や、郡中入用の運営をめぐる「民主化」闘争などが検討される。4章では、美作幕領における広域歎願闘争が分析され、惣代庄屋の惣代としての機能を確認する。

III編では組合村一惣代庄屋制が、幕末期の長州戦争下でどのように機能したかを、備中・美作幕領を素材として検討する。5章では、第一次長州戦争下で在地社会における臨戦体制の構築過程が、また6章では第二次長州戦争下における戦時体制の特質がそれぞれ分析され、代官所管下の物資調達や夫役動員に関わる郡中惣代の果たした機能を解明する。

IV編では、7章において幕領を接収して成立し、維新政権の権力基盤となった直轄県が、近世の組合村一惣代庄屋制の何を継承したかを、旧惣代庄屋制を支えた村役人層＝「政治的中間層」の動向を中心に追求し、明治2～3年に再編される新たな中間支配機構が、従来の「惣代性」を喪失し、直轄県の下級官吏へと組み込まれるに至る過程を明らかにする。

本論文は、全体として緻密で圧倒的な質量の実証を伴う独創的・先駆的な研究である点の特筆され、その水準は極めて高い。その成果と意義は以下の通りである。

1. 幕領における代官所行政を支える中間支配機構＝郡中惣代・惣代庄屋を発見し、その生成と展開の過程を克明に辿り、従来の近世幕領研究の水準を飛躍的に高めた。
2. 在地社会の自治的行政システムと、幕領の支配構造の性格を、支配・統合の二側面から解明し、近世における国家と社会の関係をめぐって重要な問題提起を行った。
3. 二次にわたった長州戦争期における幕領在地社会の状況を、中間支配機構の特質に注目しながら動態的に把握し、最幕末期における中間支配機構の特質を精緻に解明した。
4. 明治初年の直轄県における支配機構を、幕領の組合一惣代庄屋制との連続と断絶の両側面から検討し、移行期在地社会における支配構造の展開過程を一貫した論理で把握した。

本論文は、大名領における大庄屋などの中間支配機構との比較や、直轄都市における支配構造分析が未着手であるなどの課題をいくつか残している。しかし本審査委員会は、上記のような顕著な成果に鑑みて、本論文が博士（文学）に十分値するものとの結論を得た。